

## 令和元年度 明正小学校 外部評価報告書

外部評価委員：谷島 豊、押田まり子、河野祥多、山口滋久、中田容子  
報告書作成者：峯川一義

評価時期 令和2年2月

学校公開日と平日の授業日に授業参観をしたが、児童の授業に取り組む姿勢がよく、落ち着いた学校生活を過ごしていた。多くの外部評価委員からも、「児童の成長が素晴らしい」との発言があった。教師と児童、保護者とのコミュニケーションが円滑に図られ、安定した学校運営が行われている様子が見て取れた。

### 1 重点目標の評価

#### (1) 重点目標1 (コミュニケーション力を育む教育活動)

- 「あいさつ」に関するアンケート項目では、児童と保護者は肯定的な回答が90%を超えていたが、教職員は否定的な回答が32%であった。教職員が一年間重点目標として取り組んだ結果として受け止め、次年度に向け具体的な改善策を立てる必要がある。
- 「学校の一員としての自覚」を問う設問では、概ね満足する結果が得られた。教職員、保護者ともに、活動の成果を高く評価していることがうかがえる。

#### (2) 重点目標2 (最後までやり遂げる力(実行完結力)を育む教育活動)

- この重点目標は、2項目とも満足のいく結果であると考え。とりわけ、運動会や音楽会等における児童の達成感については、教職員、保護者とも肯定的回答が唯一100%であり、この項目に関する学校行事が充実していたことがうかがわれる。
- 教職員の中には、「…粘り強くやり通そうとしていたか」に否定的な回答が16%あり、この理由を明らかにし、教育活動の改善につなげてほしい。

#### (3) 重点目標3 (物事を捉える視点や考え方(見方・考え方)を身に付けさせる教育活動)

- 教職員は、肯定的評価が2項目すべてで100%であった。しかし、「個に応じた指導により…(中略)…基礎基本を身に付けることができたか」の質問は、教師は「よくあてはまる」が「0」であった。外部評価委員からも、「よくあてはまる」を増やしてほしいとの意見があり、授業改善の一層の努力を求めたい。

### 2 今後の改善に向けた意見

- 3つの重点目標すべての評価指標が一律に「学校評価アンケートを実施し…(中略)肯定的な回答を90%以上にするとしていたが、指標の設定の仕方について改善を要する。
- 重点目標の6つの評価項目のうち2項目に複数の教職員の否定的な回答があった。校長の示した重点目標に対して、達成できなかった原因や理由を明らかにした上で改善策を検討してほしい。

### 3 その他の意見

- 保護者のアンケート結果を見ると、「分からない」の回答を除けば、学校の教育活動に対して満足している様子が見える。前年度と同じ質問の項目を見ても微増、微減はあるものの概ね大きな変化はないが、「学習内容が分かりやすく、楽しい授業をしている」は5ポイント以上増加している。学習指導に対する教職員の努力の成果であろう。
- 児童アンケートでは「先生が困ったことがあったときに話しやすいか」に約20%が否定的な回答であった。子供に寄り添う教師の姿について学校全体で話し合い、全校児童が学校に居場所が楽しく生活できる場になるよう努めていただきたい。

令和元年度 中央区立明正小学校 外部評価報告書

外部評価委員： 谷島 豊、押田まり子、河野祥多、山口滋久、中田容子  
報告書作成者： 神山安弘

評価時期 令和2年2月

### 1 重点目標の評価

#### ○重点目標1 「コミュニケーション力を育む教育活動」について

評価指標「児童は状況に応じたあいさつをしているか。」は、教員の32%、保護者の7%が「ややあてはまらない」と回答している。あいさつは他者の人権を尊重する基本である。あいさつや言葉づかいの実態を分析・考察し、次年度への改善策を明らかにする必要がある。

評価指標「児童は異学年交流やボランティア活動等を通して、明正小学校の一員である自覚を高めているか。」は、教員・保護者・外部評価委員から高い評価を得ている。「地域に支えられ 地域と共に歩む学校」を目指している成果であるといえる。今後も家庭・地域と連携を図りながら、これまでの学校教育の成果を生かし充実することが大切であるとする。

#### ○重点目標2 「最後までやり遂げる力（実行完結力）を育む教育活動」について

評価指標1・評価指標2、は教職員・保護者・外部評価委員ともに一定の評価を得ている。しかし、なわとび大会、マラソン大会等の取組を通して、自己目標に対して粘り強くより通そうとしていたか、では教職員の16%が「ややあてはまらない」と回答している。このことは児童アンケート設問3「自分の体力づくりに取り組んでいますか」でも、約18%が「ややあてはまらない」「あてはまらない」と回答している。次年度は、子どもの実態から原因を分析・考察し、改善策を明らかにすることが大切である。

#### ○重点目標3 「物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を身に付けさせる教育活動」について

評価項目1「児童は学習することの楽しさを感じながら主体的に取り組んでいたか」、評価項目2「児

童は個に応じた指導の充実により、漢字や計算力などの基礎・基本を身に付けることができたか」については、教職員・保護者・外部評価委員ともに一定の評価を得ている。しかし、評価項目1・2とも保護者の約10%が「ややあてはまらない」「あてはまらない」と回答している。研究発表会等の実践の成果や課題を分析・考察し、改善策を明らかにすることが大切である。今後は、評価項目に示されている、新学習指導要領の趣旨を生かした課題解決の方法を考えたり、選択したりしながら、課題を追究する学習の工夫や基礎・基本の定着に向けた授業改善を充実することが大切である。

### 2 今後の改善に向けた意見

保護者・地域のアンケートにおいて、全ての項目において一定程度の評価を得ていることから、今後とも継続しながら改善を図ることが適切かと考える。特に、新年度から全面実施される新学習指導要領の趣旨を理解し授業改善を進めることが大切である。また、これまでの教育活動について総合的に検討し保護者や地域と議論の場をもち、理解を深めるとともに発信することで学校教育の共有と協働が求められる。

### 3 その他の意見

- ・若手教員等の増加にともない教員に指導力の差が生じており、指導力向上への取組を期待したい。
- ・学校が有する教育環境(校舎・地域)を最大限に活用した教育活動の充実を今後も期待したい。